

# エコアクション21

## 2021年度 環境経営レポート

(対象期間:2021年1月1日～2021年12月31日)



株式会社 三協デリカ



作成日： 2022年3月10日

## 目 次

項 目	ページ
ごあいさつ	2
環境経営方針	2
組織の概要	3
認証・登録の対象組織	3
事業所の紹介	3
環境経営組織図及び役割・責任・権限表	4
主な環境負荷の実績	5～7
環境経営目標及びその実績	5～7
環境経営計画の取組結果とその評価	8～11
環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果, 並びに違反, 訴訟等の有無	12
緊急事態対応訓練	12
代表者による全体の評価と見直し・指示	13
これまでの環境活動の紹介	13

### □三協デリカ 従業員紹介

三協デリカでは、現在多くの特定技能・技能実習生が活躍しており、お客様へ安全で安心な商品をお届けできるように、良品製造に努めております。



## □ごあいさつ

株式会社三協デリカは、1990年創業以来、食品製造業として歩んで参りました。大手CVS専用工場として、調理麺・惣菜等のデイリー商品を山口県、九州全域に365日供給しております。

安全・安心をモットーに、美味しい商品を時代の変化や、お客様のニーズに対応しながら提供し続けることで、信頼される企業を目指しております。

企業規模が年々拡大の一途を辿り、企業としてますます社会的責任、環境配慮が問われていくことは必然であり、社会の公器としてしっかり対応していく事を義務として取り組んでまいり所存です。

## □環境経営方針

### <環境経営理念>

株式会社三協デリカは、『すべてはお客様の“ありがとう”のために』を経営理念とし、生活者の視点に立って環境と調和を図り、地域に愛され信頼できる企業である事が使命と考えています。

食品企業として、食の安全・安心を届けることはもとより、人々の暮らしがより素敵になるよう地球環境に配慮した企業活動に努めてまいります。

### <環境保全行動指針>

持続可能な社会の実現に向けて、環境経営システムを構築し、必要な見直しを行いながら環境経営を実践し、継続的改善に努めます。

具体的な取り組みとしては、以下の5分野を重点テーマと定め、全社員が高い環境意識を持ち、計画的に取り組んでまいります。

また、この環境経営システムを用いて、SDGs(持続可能な開発目標)にも取り組み、地球環境の保全にも貢献してまいります。

#### 1. 法令遵守

環境関連法規制を遵守し、環境保全及びリスクの低減に努めます。

#### 2. 環境負荷の低減

- ・生産効率化によるCO2排出量削減
- ・水使用量の削減と浄化機能強化による排水水質の改善
- ・廃棄物の発生抑制、削減
- ・生産管理強化による食品廃棄物削減とリサイクル率の維持向上
- ・化学物質の適正使用・適正管理
- ・環境に配慮した商品製造の推進

#### 3. 製品品質(安全性)の向上

HACCPによる衛生管理の徹底

#### 4. 体制構築・人材育成

環境保全に関する社内体制の構築と、社内教育を推進し、従業員の意識向上を図ります。

#### 5. 地域との共生

地域社会とのコミュニケーションを大切にし、地域の環境活動を積極的に推進します。

制定日：2020年4月1日



株式会社 三協デリカ

代表取締役社長 野原 敏朗



## □組織の概要

更新日：2022年3月10日

### (1) 名称及び代表者名

株式会社 三協デリカ  
代表取締役社長 野原 敏朗

### (2) 所在地

本社・福岡工場 福岡県福岡市東区箱崎ふ頭6丁目8番41号  
熊本工場 熊本県熊本市北区和泉町三ツ塚168番14号

### (3) 環境管理責任者氏名及び担当者連絡先

本社・福岡工場	責任者	福岡管掌本部長	TEL：092-632-4033
	担当者	総務部	FAX：092-632-4036
熊本工場	責任者	熊本管掌本部長	TEL：096-275-2171
	担当者	総務部	FAX：096-275-2172

### (4) 事業内容

コンビニエンスストア向け調理麺の製造  
URL：<http://www.sankyoo-d.co.jp>

### (5) 事業の規模

売上高 117 億円 (2021年度)

区分	本社・福岡工場	熊本工場	合計
従業員	350 名	282 名	632 名
延べ床面積	7,443 m <sup>2</sup>	3,407 m <sup>2</sup>	10,850 m <sup>2</sup>

### (6) 事業年度

1月1日～12月31日

## □認証・登録の対象組織・活動

登録組織名：株式会社 三協デリカ  
対象事業所：本社・福岡工場  
熊本工場

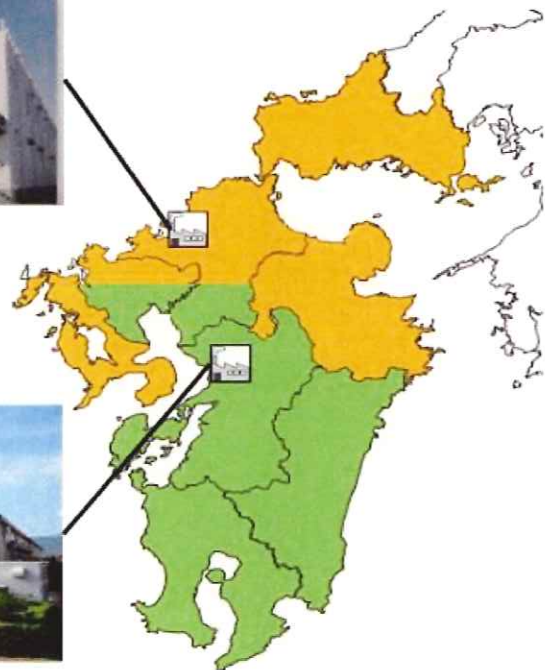
対象活動： コンビニエンスストア向け調理麺の製造

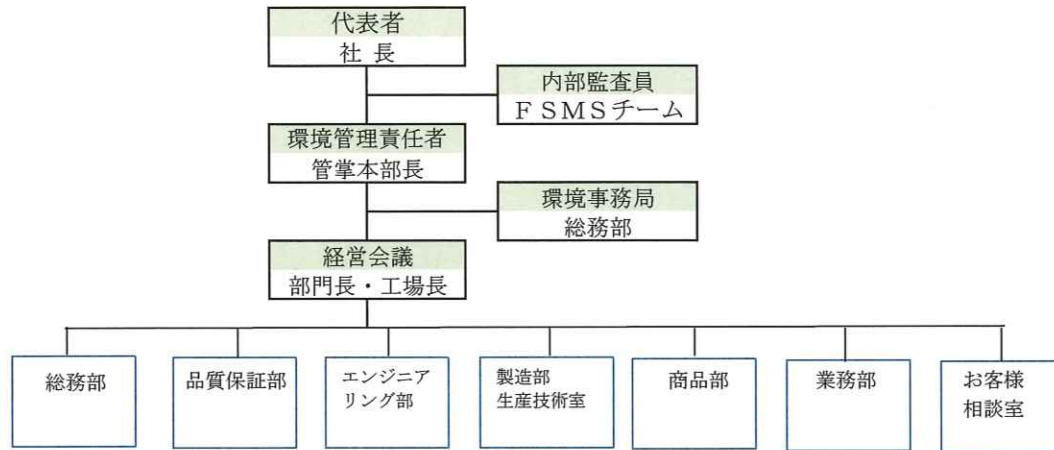
## □事業所の紹介

本社・福岡工場



熊本工場





本社・福岡工場 環境管理責任者 管掌本部長  
環境事務局 総務部 TEL092-632-4033 FAX092-632-4036  
F SMSチーム

熊本工場 環境管理責任者 管掌本部長  
環境事務局 総務部 TEL096-275-2171 FAX096-275-2172  
F SMSチーム

	役割・責任・権限
代表者（社長）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・環境経営に関する統括責任</li> <li>・環境経営システムの実施に必要な人、設備、費用、時間等経営資源を準備</li> <li>・環境管理責任者を任命</li> <li>・環境経営方針の策定・見直し</li> <li>・環境経営目標・環境経営計画書を承認</li> <li>・代表者による全体の評価と見直し、指示</li> <li>・環境経営レポートの承認</li> </ul>
環境管理責任者	<ul style="list-style-type: none"> <li>・環境経営システムの構築、実施、管理</li> <li>・環境関連法規等の取りまとめ表を承認</li> <li>・環境経営目標・環境経営計画書を確認</li> <li>・環境活動の取組結果を代表者へ報告</li> <li>・環境経営レポートの確認</li> </ul>
環境事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>・環境管理責任者の補佐、経営会議の事務局</li> <li>・環境負荷の自己チェック及び環境への取組の自己チェックの実施</li> <li>・環境経営目標、環境経営計画書原案の作成</li> <li>・環境活動の実績集計</li> <li>・環境関連法規等取りまとめ表の作成及び最新版管理</li> <li>・環境関連法規等取りまとめ表に基づく遵守評価の実施</li> <li>・環境関連の外部コミュニケーションの窓口</li> <li>・環境経営レポートの作成、公開（事務所に備え付けと地域事務局への送付）</li> </ul>
経営会議	<ul style="list-style-type: none"> <li>・環境経営計画の審議</li> <li>・取り組み状況の確認・評価</li> <li>・問題点が発生した場合は、原因究明、是正処置を検討</li> </ul>
部門長 工場長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自部門における環境経営方針の周知</li> <li>・自部門の従業員に対する教育訓練の実施</li> <li>・自部門に関連する環境活動計画の実施及び達成状況の報告</li> <li>・自部門に必要な手順書の作成及び手順書による実施</li> <li>・自部門の想定される事故及び緊急事態への対応のための手順書作成</li> <li>・試行・訓練を実施、記録の作成</li> <li>・自部門の問題点の発見、是正、予防処置の実施</li> </ul>
内部監査チーム (F SMSチーム)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・環境に関する内部監査の計画</li> <li>・環境に関する内部監査の実施・報告</li> </ul>
全従業員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・環境方針の理解と環境への取組の重要性を自覚</li> <li>・決められたことを守り、自主的・積極的に環境活動へ参加</li> </ul>

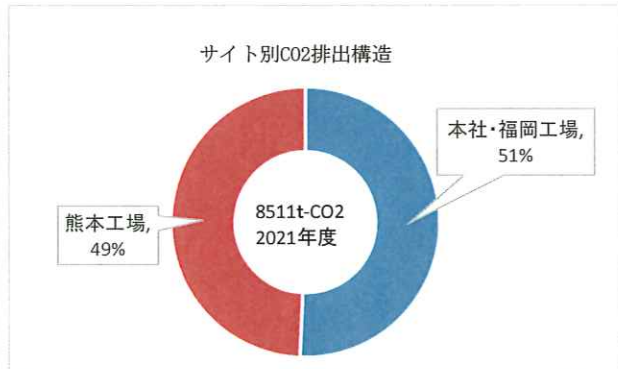
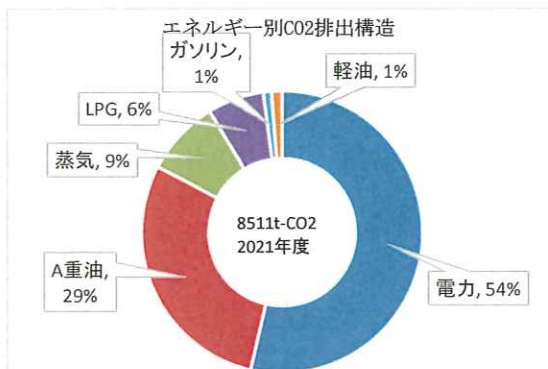


口主な環境負荷の実績(全社)

項目	単位	2019年度	2020年度	2021年度
二酸化炭素総排出量	kg-CO <sub>2</sub>	9,424,922	9,798,452	8,511,031
廃棄物排出量				
一般廃棄物排出量	t	331	313	289
産業廃棄物排出量	t	1,598	1,359	1,353
食品廃棄物				
発生量	t	1,545	1,578	1,494
発生抑制量		0	0	0
再生利用量		956	1,016	954
熱回収量		349	469	446
減量量		241	94	94
再生利用以外の量		0	0	0
廃棄物処理量		0	0	0
食品再資源化実施率	%	99%	99%	99%
水使用量	m <sup>3</sup>	537,223	470,425	464,965
	CO2排出係数 (kg-CO <sub>2</sub> /kWh)	0.370	0.479	0.391
	電力会社	九州電力	九州電力	九州電力
	採用年度	2019年度	2020年度	2021年度

※蒸気の排出係数は、供給先の「箱崎ユーティリティ(株)」(41.1)を採用

※上記CO2数値には、LPGが含まれます。



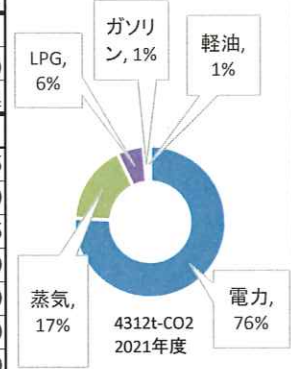
口環境経営目標及びその実績(全社)

項目	年度	基準値 (基準年)	2021年度		評価	2022年度	2023年度
			(目標)	(実績)		(目標)	(目標)
電力による二酸化炭素削減(全社)	kg-CO <sub>2</sub>	4,880,701	4,831,894	4,563,501	○	4,831,894	4,807,490
	基準年度比	2019年	99.0%	93.5%		99.0%	98.5%
	原単位 kg-CO <sub>2</sub> /百万円	379.671	375.874	388.041	×	375.874	373.975
蒸気による二酸化炭素削減(福岡工場)	kg-CO <sub>2</sub>	917,714	903,948	741,045	○	903,948	899,359
	基準年度比	2019年	98.5%	80.7%		98.5%	98.0%
	原単位 kg-CO <sub>2</sub> /百万円	116.36	114.62	103.20	○	114.617	114.035
A重油による二酸化炭素削減(熊本工場)	kg-CO <sub>2</sub>	2,883,440	2,825,771	2,475,721	○	2,825,771	2,825,771
	基準年度比	2019年	98.0%	85.9%		98.0%	98.0%
	原単位 kg-CO <sub>2</sub> /百万円	580.403	568.795	540.550	○	568.795	568.795
自動車燃料による二酸化炭素削減	kg-CO <sub>2</sub>	233,488	228,818	182,797	○	226,483	224,148
	基準年度比	2019年	98.0%	78.3%		97.0%	96.0%
	原単位 kg-CO <sub>2</sub> /百万円	18.163	17.800	15.543	○	17.618	17.437
上記二酸化炭素排出量合計	kg-CO <sub>2</sub>	8,915,342	8,790,431	7,963,063		8,788,096	8,756,769
一般廃棄物の削減	t	331	314	289	○	308	298
	基準年度比	2019年	95%	87%		93%	90%
廃プラの削減(全社)	t	855	851	609	○	847	843
	基準年度比	2019年	99.5%	71.2%		99.0%	98.5%
食品廃棄物の発生抑制 再生利用率の向上(全社)	自主目標	95%	95%	99%	○	95%	95%
	食リ法目標	80%	80%	98%	○		
	基準発生原単位 kg/百万円	192	192	127	○		
水使用量の削減(全社)	m <sup>3</sup>	537,223	531,851	464,965	○	529,165	526,479
	基準年度比	2019年	99.0%	86.5%		98.5%	98.0%
	原単位 m <sup>3</sup> /百万円	41.791	41.373	39.537	○	41.164	40.955
化学物質の適正管理(全社)		行動目標(次項による)					
環境に配慮した製品・サービスへの取組(全社)		行動目標(次項による)					

□主要環境負荷の実績(本社・福岡工場)

項目	単位	2019年	2020年	2021年度
二酸化炭素総排出量	kg-CO <sub>2</sub>	4,616,063	5,131,125	4,312,071
廃棄物排出量				
一般廃棄物排出量	t	0	0	0
産業廃棄物排出量	t	1,270	1,045	1,034
食品廃棄物				
発生量	t	777	885	865
発生抑制量		0	0	0
再生利用量		777	885	865
熱回収量		0	0	0
減量量		0	0	0
再生利用以外の量		0	0	0
廃棄物処理量		0	0	0
食品再資源化実施率		%	100%	100%
水使用量	m <sup>3</sup>	276,560	236,710	233,918
	CO2排出係数 (kg-CO <sub>2</sub> /kWh)	0.370	0.479	0.391
	電力会社	九州電力	九州電力	九州電力
	採用年度	2019年度	2020年度	2021年度

エネルギー別CO2排出構造



※蒸気の排出係数は、供給先の「箱崎ユーティリティ(株)」(41.1)を採用  
 ※上記CO2数値には、LPGが含まれます。

□環境経営目標及びその実績(本社・福岡工場)

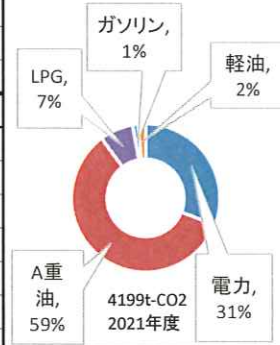
項目	年度	基準値	2021年		評価	2022年	2023年
		2019年度 基準値 (基準年)	(目標)	(実績)		(目標)	(目標)
電力による二酸化炭素削減	kg-CO <sub>2</sub>	3,461,270	3,426,657	3,266,788	○	3,426,657	3,409,350
	基準年度比	2019年	99.0%	94.4%		99.0%	98.5%
	原単位 kg-CO <sub>2</sub> /百万円	438.873	434.485	454.957	×	434.485	432.290
蒸気による二酸化炭素削減	kg-CO <sub>2</sub>	917,714	903,948	741,045	○	903,948	899,359
	基準年度比	2019年	98.5%	80.7%		98.5%	98.0%
	原単位 kg-CO <sub>2</sub> /百万円	116.36	114.62	103.20	○	114.62	114.03
自動車燃料による二酸化炭素削減	kg-CO <sub>2</sub>	86,177	84,454	61,736	○	83,592	82,730
	基準年度比	2019年	98.0%	71.6%		97.0%	96.0%
	原単位 kg-CO <sub>2</sub> /百万円	10.927	10.708	8.598		10.599	10.490
上記二酸化炭素排出量合計	kg-CO <sub>2</sub>	4,465,160	4,415,059	4,069,569	○	4,414,197	4,391,440
廃プラの削減	t	852	848	605	○	843	839
	基準年度比	2019年	99.5%	71.0%		99.0%	98.5%
食品廃棄物の発生抑制 再生利用率の向上	自主目標	95%	95%	100%	○	95%	95%
	食リ法目標	80%	80%	100%	○		
	基準発生原単位 kg/百万円	192	192	120.5	○		
水使用量の削減	m <sup>3</sup>	276,560	273,794	233,918	○	272,411	271,028
	基準年度比	2019年	99.0%	84.6%		98.5%	98.0%
	原単位 m <sup>3</sup> /百万円	35.066	34.716	32.577	○	34.540	34.365
化学物質の適正管理		行動目標 (次項による)					
環境に配慮した製品・サービスへの取組		行動目標 (次項による)					



□主な環境負荷の実績(熊本工場)

項目	単位	2019年	2020年	2021年
二酸化炭素総排出量	kg-CO2	4,808,859	4,667,327	4,198,960
廃棄物排出量				
一般廃棄物排出量	t	331	313	289
産業廃棄物排出量	t	328	314	319
食品廃棄物				
発生量	t	768	693	629
発生抑制量		0	0	0
再生利用量		179	131	89
熱回収量		349	469	446
減少量		241	94	94
再生利用以外の量		0	0	0
廃棄物処理量		0	0	0
食品再資源化実施率		%	98%	97%
水使用量	m <sup>3</sup>	260,664	233,715	231,047
	C02排出係数 (kg-CO2/kWh)	0.370	0.479	0.391
	電力会社	九州電力	九州電力	九州電力
	採用年度	2019年度	2020年度	2021年度

エネルギー別CO2排出構造



※上記CO2数値には、LPGが含まれます。

□環境経営目標及びその実績(熊本工場)

項目	年度	基準値	2021年		評価	2022年	2023年
		(基準年)	(目標)	(実績)		(目標)	(目標)
電力による二酸化炭素削減	kg-CO2	1,419,431	1,405,237	1,296,713	○	1,405,237	1,398,140
	基準年度比	2019年	99.0%	91.4%		99.0%	98.5%
	原単位 kg-CO2/百万円	283.129	280.298	283.129	×	280.298	278.882
A重油による二酸化炭素削減	kg-CO2	2,883,440	2,825,771	2,475,721	○	2,825,771	2,825,771
	基準年度比	2019年	98.0%	85.9%		98.0%	98.0%
	原単位 kg-CO2/百万円	580.358	568.751	540.558	○	568.751	568.751
自動車燃料による二酸化炭素削減	kg-CO2	147,311	144,364	121,061	○	142,891	141,418
	基準年度比	2019年	98.0%	82.2%		97.0%	96.0%
	原単位 kg-CO2/百万円	596.001	584.081	555.815	○	578.121	572.161
上記二酸化炭素排出量合計	kg-CO2	4,450,182	4,375,373	3,893,494		4,373,899	4,365,329
一般廃棄物の削減	t	331	314	289	○	308	298
	基準年度比	2019年	95%	87%		93%	90%
廃プラの削減	t	3.51	3.49	3.97	×	3.47	3.46
	基準年度比	2019年	99.5%	113.1%		99.0%	98.5%
食品廃棄物の発生抑制・再生利用率の向上	自主目標	95%	95%	96%	○	95%	95%
	食リ法目標	80%	80%	96%	○		
	基準発生原単位 kg/百万円	192	192	137.3	○		
水使用量の削減	m <sup>3</sup>	260,664	258,057	231,047	○	256,754	255,450
	基準年度比	2019年	99.0%	88.6%		98.5%	98.0%
	原単位 m <sup>3</sup> /百万円	52.465	51.940	50.448	○	51.678	51.415
化学物質の適正管理		行動目標 (次項による)					
環境に配慮した製品・サービスへの取組		行動目標 (次項による)					



## 環境経営計画の取組結果とその評価、次年度の環境経営計画(全社)

数値目標：○達成 ×未達成

活動：◎よくできた ○まあまあできた △あまりできなかった ×全くできなかった

取り組み計画	達成状況	取組結果とその評価
電力による二酸化炭素削減(全社)	達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組計画
数値目標	○	LED化は進んではいるが、福岡工場では全体の25%しか更新できていない。両工場ともに、スピード感を持って対応する。
・空調温度の適正化(事務所等：冷房28℃ 暖房20℃)	○	C02排出量削減では目標をクリアしたものの、売上原単位では未達となっている。熊本工場では排水処理設備導入も予定しており、消費量が増加する。省エネ機器更新前倒しや、高額な資金をかけなくても、出来ることはないのか、見落としていないか、総点検する必要がある。
・LED照明化推進	△	
・空調機の省エネタイプ更新25台	○	
・製麺機モーター省エネタイプ更新(3台)	○	
・空気圧縮機のエア洩れ点検	○	

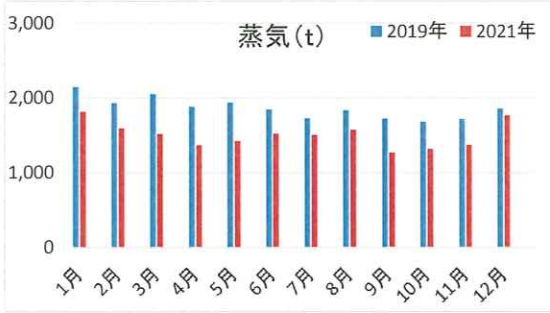


取組紹介  
省エネタイプへの  
機器更新実施  
製麺機モーター更新



	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
2019年	774,890	719,610	841,322	882,217	1,105,661	1,204,729	1,405,208	1,526,643	1,312,858	1,072,905	836,917	799,651
2021年	715,709	681,035	798,985	815,443	996,216	1,164,841	1,415,441	1,412,610	1,192,196	979,015	751,900	747,968

取り組み計画	達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組計画
蒸気による二酸化炭素削減(福岡工場)	達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組計画
数値目標	○	熱回収装置を設置しテストを行った。効果が出ており、今後水平展開していく。製麺工程では、蒸気使用量が多いため、
蒸気配管メンテナンス	○	機器稼働開始時間もルールとして決めたが、削減に向けて更なる改善が必要なため情報収集を行う。C02削減率、売上原単位ともに目標達成した。
熱効率向上のため釜専用蓋設置	○	
熱回収設備設置	○	

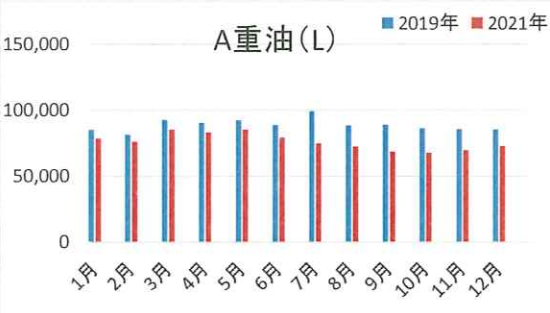


取組紹介  
熱効率向上、蒸気使用量  
削減のため、専用蓋設置



	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
2019年	2,148	1,933	2,053	1,881	1,935	1,840	1,728	1,835	1,721	1,682	1,716	1,856
2021年	1,816	1,594	1,517	1,368	1,423	1,521	1,501	1,573	1,268	1,312	1,374	1,763

取り組み計画	達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組計画
A重油による二酸化炭素削減(熊本工場)	達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組計画
数値目標	○	10月に廃熱回収装置の検討を行ったが、福岡工場でのテストが行われるため一旦見送りとした。11月に茹で室ラッキング補修工実施。
・ボイラ・加熱炉の空気比適正化	×	ボイラー1号機更新の効果で使用量は目標値をクリアできているが原単位あたりでは4月、5月、8月目標未達。
・蒸気・冷温水配管の保温強化	○	
・廃熱回収装置の検討	×	



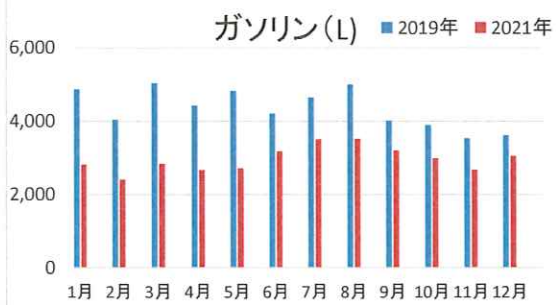
取組紹介  
蒸気ボイラーは熱効率が良い  
2号機をメインで稼働。  
1号機及び、ガスボイラーの稼働  
は蒸気圧で制御。  
メーカーによる定期バーナー清掃  
日常点検とメーカー点検で稼働  
効率の適正化に取組中。

バーナー定期清掃



	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
2019年	85,000	81,400	92,600	90,300	92,200	88,650	99,250	88,500	88,850	86,150	85,600	85,500
2021年	78,700	76,100	85,200	83,200	85,450	79,250	75,000	72,450	68,450	67,550	69,650	72,550

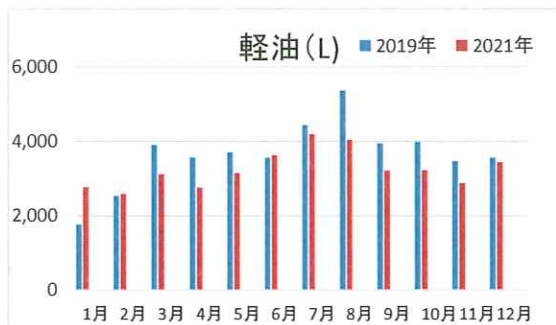
自動車燃料による二酸化炭素削減	達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組計画
数値目標	○	コロナ渦もあり、自動車使用も少なくなり、排出削減目標クリアした。両工場ともに燃費管理が出来ていないため、把握するように努める。熊本工場では、CiEMS導入しており、ドライバーの運転状況を可視化し、ドライバーへの注意喚起が出来ている。可視化することで、ドライバーの意識も変わるため、福岡工場でも進めていく。
・アイドリングストップ	○	
・CiEMS導入による運転状況の管理に	○	



取組紹介  
急発進や急ブレーキなども分かるようになり、安全運転においても、注意喚起、指導ができるようになった

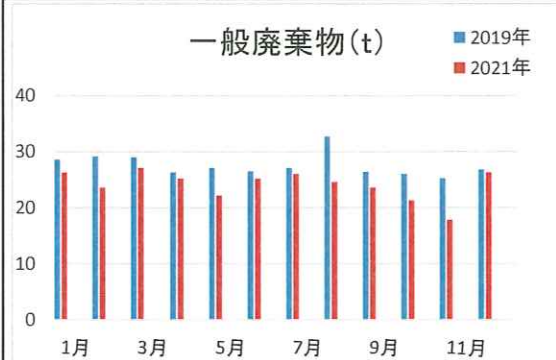


	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
2019年	4,867	4,031	5,024	4,419	4,821	4,208	4,642	4,995	4,013	3,889	3,534	3,613
2021年	2,822	2,405	2,834	2,659	2,719	3,174	3,496	3,517	3,191	2,985	2,675	3,044



	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
2019年	1,756	2,524	3,895	3,557	3,697	3,550	4,426	5,369	3,939	3,974	3,457	3,547
2021年	2,757	2,574	3,111	2,754	3,141	3,627	4,198	4,032	3,210	3,212	2,862	3,433

一般廃棄物の削減	達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組計画
数値目標	○	発注精度の確認は毎月実施できている。
・包材発注量の精度アップ	△	包装機器のメンテナンスも日々実施できている。結果としては数値目標が達成できたものの取組として新たな手が打てていない。
・包装不良の削減（機器メンテナンス）	○	
・包材落下削減	×	



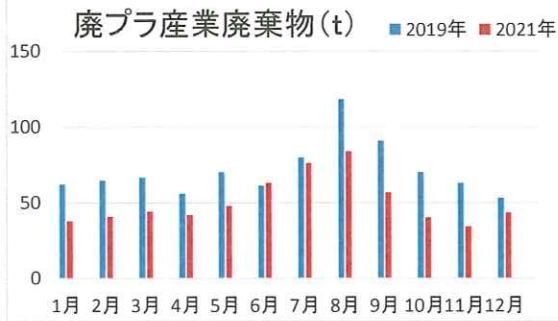
取組紹介  
機器サンテーションやメンテナンスレベルの向上に努めた



	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
2019年	29	29	29	26	27	27	27	33	26	26	25	27
2021年	26	24	27	25	22	25	26	25	24	21	18	26



廃プラの削減(全社)	達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組計画
数値目標	○	エンジ部協力のもと、機器取り扱い教育が進み、人によるバラツキが両工場ともに抑制されたが、熊本工場は目標未達となった。新たな手が打てていないことが原因。ERCMの検討も実施したが、設置場所スペースの問題もあり進んでいない。その他方法がないか情報収集を行う。
・包材発注量の精度アップ	△	
・包装不良の削減(機器メンテナンス)	○	
・包材落下削減	△	
・ステンレスパットへの変更	○	



取組紹介  
 廃プラ削減のため  
 機器サンテーションや  
 メンテナンスレベルの  
 向上に努めた



	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
2019年	62	65	67	56	70	61	80	118	91	70	63	53
2021年	38	41	44	42	48	63	76	84	57	40	34	43

食品廃棄物の発生抑制・再生利用率の向上(全社)	達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組計画
数値目標	○	廃棄物処理業者の実施状況の確認が必要 廃棄物の再資源化率向上の為に熱回収している廃棄物の発生抑制や減容への取り組みが必要となるので来期以降の検討が必要。又、外国人も増えており、分別に対する教育も進める。歩留まり管理においては、各部署から参加したロットテスト会議を実施することで、問題を素早く察知し、改善に向けた活動ができた。食品リサイクル率も達成した
・先入先出しミスによる廃棄削減	○	
・盛付重量精度向上教育	○	
・見込み生産低減	○	
・加工ロス歩留まり改善・誤作削減	○	
・分別の教育、徹底	△	

取組紹介  
 エコアクション21の  
 取組や、ゴミの分別  
 化学物質リスクなど  
 勉強会を実施



水使用量の削減(全社)	達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組計画
数値目標	○	削減目標両工場ともに達成、巡回確認徹底や、小集団活動によって管理精度が向上している。2022年においては熊本工場排水処理設備も導入予定、水質改善にも期待できる。水量管理は人によるところが大きいいため、より削減するため、自動管理できる部分について検討する。
・ムダ水削減対策(ガン取り付け)	○	
・製麺・野菜工程水量調整による削減(人によるバラつき)	○	
・現場巡回での確認徹底	○	
・節水小集団活動による使用量削減(熊)	○	



取組紹介  
 水使用量抑制のため  
 決められたルールが  
 守れているか、巡回  
 確認実施し、抑制に  
 努めた



	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
2019年	41,119	38,077	44,666	45,256	48,653	48,630	49,424	53,664	47,842	44,202	39,163	36,528
2021年	35,039	34,199	38,373	37,024	40,179	42,639	44,456	46,204	38,477	36,766	35,242	36,367

化学物質の適正管理(全社)	達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組計画
・リスクアセスメントの実施	○	講師を招き研修を実施しリスクアセスメントの理解を深めた。絵表示による管理がまだ出来ていないため、分かりやすい掲示にする必要がある。まだPRTRに一部該当する洗剤も使用しているため、代替物質に変更していく。
・有害性物質の表示の徹底	△	
・従業員教育	△	
・代替物質の検討	○	

環境に配慮した製品・サービスへの取組(全社)	達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組計画
・顧客クレーム削減	○	お客様の声や、地区の特色を活かした商品開発は出来ている、リニューアルをしながらロングセラー商品になれるように努めた。グリーン購入は一部しかできていないため、環境面に配慮した事務用品を購入するように努める
・ロングセラー商品開発	○	
・事務用品のグリーン購入推進	△	



## 工場取組紹介

<本社・福岡工場>

節電・CO2削減に向けた、熱交換率改善への取組  
(マイナスイオンによる、冷媒潤滑油の改質)  
エネフューチャーによる節電



<本社・福岡工場>

製麺機に熱回収機設置



<本社・福岡工場>

節電対策  
(人感センサーによる使用量削減)



<熊本工場>

スクリーン脱水機  
(野菜くず圧搾による減量化)







**□環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果、並びに違反、訴訟の有無**

- ・法的義務を受ける主な環境関連法規制は次の通りです。
- ・環境関連法規制等の遵守状況の評価の結果、環境関連法規制等は遵守されていました。
- ・食品リサイクル法の事業者ごとの基準実施率は達成しています。
- ・なお、違反、訴訟等も過去3年間ありませんでした。

適用される法規制	適用される事項（施設・物質・事業活動等）
廃棄物処理法	一般廃棄物、産業廃棄物（動植物性残さ、廃プラ、汚泥、廃油等）
食品リサイクル法	食品廃棄物
騒音規制法	空気圧縮機、送風機
水質汚濁防止法	油類保管、洗浄設備
下水道法	除害施設
大気汚染防止法	ボイラー（煤煙）
省エネ法	特定事業所
温暖化対策推進法	二酸化炭素排出
消防法（危険物）	危険物の保管
フロン排出抑制法	業務用空調機・冷凍庫・冷蔵庫
化学物質排出把握管理促進法	殺菌剤、洗浄剤

**□緊急事態対応の試行・訓練**

緊急事態の想定： 油流出事故対応訓練			
■実施日： 2021年11月18日	■実施場所 福岡工場		
■参加者： 社員6名			
■実施内容： <input checked="" type="checkbox"/> 通報訓練 <input type="checkbox"/> 消火訓練 <input checked="" type="checkbox"/> 油流出事故対応訓練			
■評価： 汚染拡大防止のため、更なる訓練が必要 <input type="checkbox"/> 手順書の変更の必要性 <input type="checkbox"/> あり <input checked="" type="checkbox"/> なし 手順を確認し、どこに問題があるのか明確にした。汚染拡大防止のため更なる訓練が必要			
■実施状況の様子			
			

緊急事態の想定： 火災発生			
■実施日： 2021/11/18	■実施場所 熊本工場		
■参加者： 社員20名 パートナー40名			
■実施内容： <input checked="" type="checkbox"/> 通報訓練 <input checked="" type="checkbox"/> 消火訓練 <input checked="" type="checkbox"/> 避難訓練			
■評価： 問題なし <input type="checkbox"/> 手順書の変更の必要性 <input type="checkbox"/> あり <input checked="" type="checkbox"/> なし 避難経路図も掲示してあり、社員以外での誘導もしやすくなった			
■実施状況の様子			
			



## □代表者による全体の評価と見直し・指示

実施日：2022年2月18日

新型コロナ感染拡大が続くなか、依然としてその影響は大きく、今期の売上は対19年比91.5%、生産食数は対19年比89.7%と非常に厳しい状況でした。そういうなか、環境経営方針の社内浸透をより進め、目標達成に向、一丸となって取り組んでくれました。結果としては、電力（原単位）が未達となりましたが、他の項目については達成できました。ただし、この生産食数の減少を鑑みると、今期の結果は参考数値ととらえ、改善事項に積極的に取組み、環境負荷の更なる低減を図ることが必要だと考えます。今後も、環境影響を低減するために、社員に対して環境方針の周知を図るとともに、環境教育、人材育成を積極的かつ継続的に行い、環境マネジメント活動を推進し、より一層の環境配慮型事業を目指します。  
環境経営方針及び実施体制は当面変更なしとするが、より環境負荷を低減するため、数値目標及び環境経営計画の見直しを指示した。

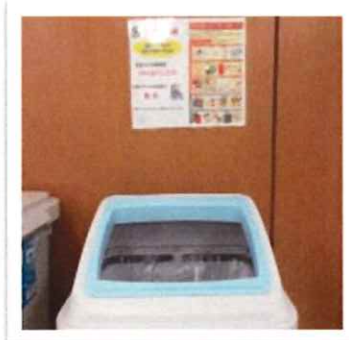
環境経営方針	<input checked="" type="checkbox"/> 変更なし	<input type="checkbox"/> 変更あり
環境経営目標・計画	<input type="checkbox"/> 変更なし	<input checked="" type="checkbox"/> 変更あり
実施体制他	<input checked="" type="checkbox"/> 変更なし	<input type="checkbox"/> 変更あり

## □これまでの環境活動の紹介

環境・資源・福祉に役立つように  
エコキャップ運動実施しています



資源の有効活用のため  
古紙リサイクル運動実施



地域貢献の一環として  
地域清掃活動実施しています

